

創造性豊かな子供を育てよう

『少年少女発明クラブ』が誕生



県下で初めて、四国で二番目になる「南国市少年少女発明クラブ」の発会式が八月二十一日、大祿地区公民館で、会員と父兄、中内知事、小笠原市長、発明協会の関係者ら九十人が集まり開かれました。

このクラブは、家庭や学校とは違った集団の中で、工作活動などを通じ、子どもたちの豊かな創造性を育てていこうと、市県下で初めての、少年少女発明クラブの発会式

教育委員会と(社)発明協会高知県支部が主催したもの。全国で六十番目のクラブです。

会員は、市内九小学校の四年、六年生ら三十四人。期間は四月から一年間となっていますが、今年度は九月から毎月一回の割合で、研究を進めていく予定。運営は、十一人の委員で構成する企画運営委員会(委員長―岩原信守市教育研究所長)が審議して決めます。

指導は、猪野吉保専任指導員のほか、市内小中学校の理科担当の先生六人があたります。

発会式では、まず鈴江教育長が

「頭の柔らかい子供のうちに創造力を育て、楽しい作品をたくさん作ってください」とあいさつ。発明協会の理事、知事や市長らが祝辞を送った後、クラブ員を代表して、菊本忠行君(大祿小六年)が「一生懸命勉強して、りっぱな作品を作ります」と、誓いの言葉を述べました。

その後、同クラブの教室となる大祿小工作室でテープカットをし、中内知事が、入口に発明クラブの看板を掲示。最後に、猪野専任指導員が、発明の楽しさについて話をし、子供たちは、興味深そうに目を輝かせていました。



南国歌壇

愛惜の村人集う盆踊り

無心なる幼子が仲間入りして

前浜 沢田千恵子

言葉さえ伝うることのほどかしき

ひととせぶりに友と会いし日

後免町 刈谷益子

父病める肩にかかりし農繁期

調子くるうなコンパインよと

浜改田 浜田一雄

緑濃き札所参りに白衣着て

頭上にあつきセミしぐれ

十市 井上三十三

おだてられおだてられつつ石鐘原

上年も忘れて辿り着きたり

里改田 植瀬米井

美田をば遊ばせ米が不足する

後免町 隅田俊作

鳴子から塩の飛び散る夏祭り

植田 吉本其梅

消防署きのう手柄のホース干す

岡豊町 橋田井波

とぼとぼと足音かるき白き杖

里改田 下総金子

南国柳壇

炎天の石仏すこし耳遠し

さるすべりだけに風ある午後三時

鉄を引く炎昼の眉食い違う

砂ほこりたててバス来る芥子の燈

通し土間くぐり果立ちのつばくらめ

土佐の大盃かたむけて立ち弓始

五月晴歴史の道を散策す

宿浴衣着たまま土産買に出る

花含飲や水豊かなる杉田ダム

南国俳壇

瀧淵由紀男(岩村句会)

池 さち()

大島新草()

木戸 節(天狼俳句会)

中村榮生()

山中日夾()

島田文子(おがたま会)

中澤道子()

門田郁子()